



教派の違いによる差別

- 教派(denomination)とは何か
- カトリックとプロテスタントの違い
- プロテスタントの中の諸教派の違い

24

教派の対立を越えて ——エキュメニカル運動

- エキュメニカル運動(教派一致運動)
 - 1910年のエジンバラ世界宣教会議が起源。
- 世界教会協議会(World Council of Churches)
 - 1948年、オランダのアムステルダムで発足。
 - ヨーロッパと北米を中心とする147の加盟教団から始まったが、今では、110以上の国から349の教団が加盟している。
 - 東方正教会は設立当初からのメンバーであるが、ローマ・カトリック教会は加盟していない。ただし、カトリックは様々な会議でオブザーバーとして参加し、共同の作業に加わっている。

25

宗教が関係している紛争の例

- ボスニア(カトリック、セルビア正教会、イスラーム)
- インド(キリスト教、ヒンドゥー教、イスラーム)
- インドネシア(キリスト教、イスラーム)
- 中東(キリスト教、イスラーム、ユダヤ教)
- 北アイルランド(プロテスタント、カトリック)
- スリランカ(ヒンドゥー教、イスラーム、仏教)
- スーダン(キリスト教、イスラーム)
- 米・同時多発テロ(イスラーム、キリスト教)
- 中国(共産党、チベット仏教、ウイグル自治区イスラーム)

26

原因と要因の区別

- 宗教の対立が紛争の直接的「原因」となっていることはまれ。
- 紛争の原因は複合的。
 - 「宗教紛争」という表現は、しばしば問題を単純化しすぎる。
- しかし、いったん始まった紛争において宗教が関与し、それが「要因」となって紛争が長引いたり、複雑化したりすることはある。

27

一神教相互の対立と抗争の歴史

- キリスト教世界の中のユダヤ教
 - 反ユダヤ主義(anti-Semitism)
- キリスト教とイスラーム
 - レコンキスタ: 718年-1492年に行われたキリスト教国によるイベリア半島の再征服
 - 十字軍: 11世紀末から13世紀にかけて、聖地エルサレムをイスラム教徒から奪回するため、前後8回にわたり行われた西欧キリスト教徒による遠征。

28

一神教研究の必要性

- ユダヤ教・キリスト教・イスラーム
 - アブラハムを信仰の父とする伝統と歴史を共有する兄弟宗教。
- 「近さ」ゆえの対立(近親憎悪)
- 欧米、中東では一神教同士の対等な対話はきわめて困難。
- 同志社大学 一神教学際研究センター(CISMOR)の設立(2003年)
→ <http://www.cismor.jp>

29

宗教間対話の課題

- 他者の宗教的感情の尊重。
- 諸宗教の共存可能条件の形成。
- 各宗教内における保守派(原理主義者)と自由主義者の対話。
- 宗教的価値と世俗的価値(啓蒙主義的価値:人権、表現の自由など)の対立の抑制。
- [参考] 京都・宗教系大学院連合(K-GURS)の設立(2005年) → <http://www.kgurs.jp>

30

まとめ

キリスト教社会倫理の課題と展望

31

西欧神学の相対化

- 一つの文化 → 西欧文化
- 一つの人種 → 白人
- 一つの性 → 男性
- 一つの階級 → 支配階級
- 一つの宗教 → キリスト教

32

神学とコンテキストの関係

- 誰が
 - どこで
 - 何のために
 - どのような
- } 神学を必要とするのか？

33

「自然」に対する批判的洞察

「自然」という概念を安易に倫理的規範にすることはできない。

34

経験的規範による聖書解釈

- 経験に即して、それぞれの聖書テキストに価値の重みを分配することは、解釈上、必要である。
- しかし、自分の立場を「正当化」するために聖書を利用(悪用)することに対しては、自己批判の視点を持たなければならない。

35

グローバル・エシックスの土台としての宗教間対話

- キリスト教の中だけで、あるいは、キリスト教の力だけで、社会倫理にかかわる現代的課題を解決することはできない。
- 異なる信仰・価値観を持つ人々が平和で安定した生活を送るためには、他の宗教への理解や、それらとの対話・協力を欠くことができない。

36